

日本自動車工業会 地球温暖化対策長期ビジョン

国内外で、低炭素・脱炭素社会が求められているなか、日本自動車工業会においても、自動車排出する温室効果ガスの大幅な削減を目指してゆく。そのためにも、自動車の技術、使い方のイノベーションにより、ゼロエミッションにチャレンジする。

2050年といった長期においては、自動車技術の進化とともに、社会構造の変化や車の使い方の大きな変化も予想される。持続可能なモビリティ社会の実現に向け、政府や関係者と協力して取り組む。

長期ビジョン達成のためのアクション（1/3）

（自動車の技術）

自動車から排出するCO₂を大幅に削減するためには、電動化、特にBEV/PHEV/FCEVの普及が鍵であり、自動車業界は技術課題の対策を進める。

（社会との係わり）

社会構造の変化、個人の意識や行動の変化が予想され、自動車の使い方も変わると考えられる。これら変化に対応できるよう、低炭素かつ多様なモビリティやシステムを検討・開発し社会に貢献する。

例) 自動運転、シェアリング、MaaS、超小型モビリティ、V2G、町づくり(コンパクトシティ等)と最適モビリティ

長期ビジョン達成のためのアクション（2/3）

（交通流の改善）

交通渋滞は時間とエネルギーのロスにつながり、CO₂排出量も甚大。渋滞レスのスムーズな交通を実現するため、信号制御やITSの更なる高度化を官民で協力して推進する。

（車の使い方：エコドライブ）

自動運転が広く普及するまでは運転者のエコドライブが有効な手段となるため、日本自動車工業会はエコドライブの啓発・普及に今後も努める。

（物流の効率改善）

貨物自動車のCO₂削減には物流の大幅な効率改善が不可欠。IoT等による革新的物流システムの実現に協力する。

長期ビジョン達成のためのアクション (3/3)

(エネルギーの多様化)

BEV/PHEV/FCEVの普及にはインフラ整備が必要であること、また、これら電動車の環境性能を発揮するには電源や水素の低炭素化(脱炭素化)も必要であり、政府やエネルギー供給者と連携して進める。

内燃機関の脱炭素化もCO₂削減手段の一つであり、カーボンフリーとなるバイオ燃料や合成燃料の将来的な活用を視野に入れて内燃機関の高効率化と新燃料対応に取り組む。

(海外展開)

電動車/インフラや社会に適応した多様なモビリティシステムを政府や関係者とともに早期に構築し、世界へ展開し貢献する。

以上